

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 平成 28 年 3 月 15 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ウルドゥー語・准教授
氏名 Name	北田 信
専門分野 Academic Field	ウルドゥー語研究・南アジア研究

主たる研究テーマ Principal Research Subject	南アジア諸言語の文学
<p>(1) パンジャービー語古典文学・ワーリス・シャー作『ヒールとラーンジャー』のテキストを分析した。一つは対句表現（平行詩）を、ロシア・フォルマリズムに属する言語学者ロマン・ヤーコブソンの作詩理論に基づいて分析したもので、ワーリス・シャーのテキストが彼自身の完全な創作ではなく、先行する民間の口承文芸を踏まえていることを示した。他方は、この作品の中に現れる、ヒンドゥー教ナータ派のヨーガ行者の描写とヨーガに関する異教的な教義を踏まえた記述を分析したものであり、ヒンドゥー教とイスラム教の混淆を如実に示すものであることを論じた。</p> <p>(2) 8月にイランを調査し、ヒンドゥスターニー古典音楽に強い影響を与えたとされるイラン古典音楽を実地に観察した。</p> <p>(3) 9月に共同研究者ドゥルガ・ダッタ氏とともにインド・西ベンガル州プルリアを訪れ、歌謡形式ジュムルの録音・録画を行った。これは男性音楽家のグループ＋女性ダンサーが掛け合いをしながら艶歌を詠うもので、ベンガル地方の各地に伝わる男性の娯楽であるが、その歌詞の内容は、中世ベンガル語最古の文献であるボル・チョンディダシュ作『クリシュナ賛歌』との類似を示すことが指摘されている。</p> <p>(4) 12月～1月にかけて、ネパール・カトマンドゥを訪れ、カーシーナート・タモート教授と共にベンガル語演劇写本の解読作業を行った。また、カトマンドゥ盆地南端の村ファルピンに伝わる伝統演劇カッティエ・ピャーカンについての聴き取り調査を行った。</p> <p>(5) このことを踏まえて3月にフランス国立東洋言語学院(INALCO)において研究発表を行い、また、ネパール研究の専門家と情報交換を行った。</p> <p>(6) ウルドゥー語古典詩人ミルザー・ガーリブのガザルの内的構造について分析した。</p>	